

人生の設計図 親子で考える ライフプラン

人生の設計図を描く

誰もが、それぞれの家庭の夢や目標を達成し、生きがいのあふ豊かな人生を送りたい、そう望んでいることでしょう。そのため作成するのが、人生の設計図、つまり「ライフプラン」です。しかし、人生には不安やリスクがつきまといまわります。誰もが不安を感じていること、それは「経済的な不安」ではないでしょうか。いつどのくらいのお金が必要なのか、どのように用意すればいいのか、不安を解消するために「ファイナンシャル

プラン」があります。それぞれの家庭の目標や夢に沿った人生の設計図にしたがって予算管理（家計運営）をしていこうとするのが、「ファイナンシャルプラン」の基本的な考え方です。今後、ますます変化していくであろう社会保障制度を目前に、何らかの手段をとらなくてはいけないと考えている人は多いでしょう。ただ、どんな自助努力をすべきかは、誰も教えてくれないのが現実です。そこで、各家庭ですべき自助努力の方法を明確にしてくれるのが「ライフプラン」という人生の設計図

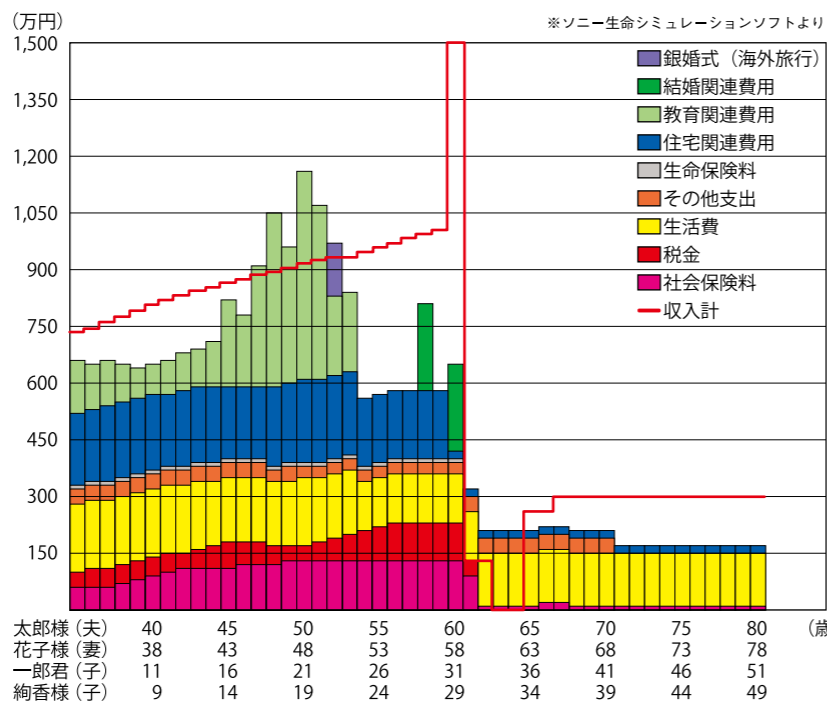
です。オリジナルの計画を立て、計画に沿って暮らしていくことが、これからの時代にはますます重要になっていくのです。人生の中で最大資金は「住宅資金」「教育資金」「老後資金」の3つです。これらのバランスをどのようにとっていくかで、ライフプランは大きく異なってきます。一生の内に稼ぎ出すお金が変わらないのであれば、住宅費や教育費のかけ方次第で老後資金として準備できる金額が異なってくるからです。周囲の人と同じ暮らし方をしているも、老後をそれなりに乗り切れ

た時代はすでに終わったと考えるたほうがいいでしょう。公的年金の支給額が目減りによって老後の生活が厳しくなってくるのはもちろん、計画を立てずに暮らしていると、現役時代であっても資金面で必ず厳しいときがやってくるからです。「資金面で厳しい時代が何年後に訪れるのか」といった現実も、ライフプランを立ててみて初めてわかること。厳しい時代のために、今からどれだけの準備ができるのかを、それぞれの家庭でしっかり考えてみましょう。

住宅資金

「マイホームを持つか、一生賃貸住まいをするか」新しい所帯を持つ子世代や孫世代にとって、マイホームが一生のうちで一番高額な買い物になるのが一般的です。購入すれば自分の家という満足感を得られる反面、何十年も続く住宅ローンの返済も引き受けなければなりません。賃貸暮らしなら、いつでも住み替えが可能で住宅ローンを背負うこともありませんが、老後にも住居費の負担が残る、尚且つ高齢になるほど部屋を借り

■ライフプラン年度別収支グラフ (夫35歳・妻33歳・子供2人のモデルケース)



太郎様(夫)	40	45	50	55	60	65	70	75	80
花子様(妻)	38	43	48	53	58	63	68	73	78
一郎君(子)	11	16	21	26	31	36	41	46	51
絢香様(子)	9	14	19	24	29	34	39	44	49

■教育資金のめやす (円) ※ソニー生命保険株式会社調べ

	幼稚園	小学校	中学校	高校	大学
公立	25万	198万	141万	156万	240万
私立	53万	858万	415万	346万	330万(文系) 452万(理系) 2,423万(医科歯科系)

教育資金

教育資金は、ある程度必ず必要となるお金であり、節約しようと思ってもできるものではないかもしれません。不景気で収入が伸びないときほど、早めの準備が必要で、教育資金は年々増えていくため、収入が順調に伸びてくれないと、貯蓄をどんどん取り崩すことになってしまいうからで

ある程度の資産を持っている人であっても、貯めても貯めても不安感が解消できないということを口にするように、「いくら貯めるのが正解」ということがないのも、老後資金を準備するときの難しいところです。老後に必要となる資金は何千万円と高額であり、当然ながら膨大な時間がかかります。子供の教育が終わってからは、では遅すぎ

幸せとは何か

忘れてならないことは、ライフプランは「家族の夢をかなえるためのプランである」ということ。お金≠幸せではありません。貯めたお金の活用法や、お金の上手な付き合い方を知っているからこそ、幸せを実感できるのではないのでしょうか。そのためにライフプランを立てるときは、お金の上手な使い方についても、ぜひ検討してほしいと思います。ライフプランを立てたときに、資金面では我慢したほうがよさそうなお夢であっても、もう少しお金のからない方法を見つけてみるなど、夢を実現するための方法を再検討することもお勧めします。

人生の設計図は、人それぞれによって違うもの。設計図のない人生は、海図のない航海のようなものです。荒波を越えて、いかに幸福に生きるか。親子でライフプランについて話し合う時代が訪れています。

PROFILE

本多良美
1960年東京都生まれ。独協大学経済学部卒業。法政大学大学院 経営学専攻 修士課程修了。筑波大学大学院 企業法専攻 修士課程修了。相続・事業承継対策を専門分野に、エグゼクティブファイナンシャルプランナーを務める。経営士(日本経営士会会員)。株式会社アセットマネジメント代表。

